

様式第6号（第6条関係）



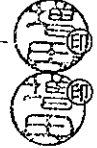
平成27年4月10日

(宛先) 安曇野市議会議長 宮下 明博

会 派 名

代表者氏名 増田望三郎

経理責任者氏名 増田望三郎



平成26年度政務活動費収支報告書

安曇野市議会政務活動費の交付に関する条例第9条の規定により、平成26年度政務活動費収支報告書を提出します。

1 収支決算

収入の部

(単位：円)

項 目	決 算 額	備 考
政務活動費	90,000	@90,000円×1人
合 計	90,000	

支出の部

項 目	決 算 額	備 考
研修費	20,000	地方議員研究会セミナー他
広報費	59,150	議員広報紙の発行(71,499円のうち、59,150円を充当)
資料購入費	2,380	書籍『市町村財政分析』
広報費	3,000	一般質問DVD作成代
資料作成費	5,470	一般質問配布資料コピー代
合 計	90,000	

2 収入支出差引残高 0 円

備考

- 1 備考欄には、主たる収入支出の内訳を記載すること。
- 2 政務活動実施状況（別紙）を添付すること。

別紙

政務活動実施状況

活動名	地方議員研究会セミナー参加	
活動区分	①調査研究 ②研修 ③資料作成 ④資料購入 ⑤広報広聴 ⑥要請・陳情 ⑦その他	
活動の目的	一般質問を通じての議員の質問力、政策提案力を身につけるため。	
活動の概要	日時	平成27年3月25日(水)
	研修先・主催者等	アットビジネスセンター東京駅(東京都中央区) 主催 地方議員研究会
	報告内容・実施したこと。	別紙研修報告書①のとおり
	まとめ(感想・市政に活かせること等)	別紙研修報告書①のとおり

備考 政務活動等実施状況は活動ごとに作成し、領収書その他支出を証する書類を最後にまとめて添付すること。

研修報告書①

●研修概要

研修名：二元代表制を機能させるための議員力アップ講座 in 東京

主催：地方議員研究会

日時：3月25日 場所：アットビジネスセンター東京駅

講師：川本達志氏（元広島県廿日市市副市長）

テーマ：

- ・ 執行部として受けた良い質問と悪い質問
- ・ 数字をつけろ。財源を示せ。テーマは続けろ。
- ・ 一般質問と政策実現の関係
- ・ 質問のための資料集めの手法
- ・ 議会が機関としての政策的意思を！

●感想／今後の議員活動につなげたいこと

「思いっきの発言・質問が一番困る。」

これは私が懇意にしている行政マンに対して「どんな議員が困る？」と問うた際の答えである。議会と言う、その市町村で最も公の議論の場で議論できる権利と責任をもった議員にとって、その発言が単なる思いっきでなく、いかに現状の行政や市（市民）の課題を捉えたものなのか、またこれから向かうべき理想に向かっての足掛かりとなるものなのか、それを考えなければならない。

中でも一般質問は議会の花。20分という持ち時間を与えられ、存分に自分の政治課題を議場に持ち込み、公の議論の場にさらすことができる。行政側が質問の聴き取りを含め、時間をかけて答弁を考えてくれるように、我々議員も質問の質を上げていかなければならない。その意欲から今回の研修に参加した。

以下、研修で学び、今後留意したい点をまとめる。

♪ 執行部として受けた良い質問と悪い質問

・ 行政のマネジメントサイクルの中で、行政は機関。それに対して議会は機関だが、一議員としては権能が無い。議会として権能が持っている。では議員は力が無いのか？そうではない。

・ では一人の議員として執行部を動かすにはどうすればいいのか？役所内のマネジメントサイクルに乗せると政策は実現しやすい。議員個人には政策提案することができるが、一方執行部は責任を持って政策執行しなければならない。そのためには様々な事前協議や調整が必要。自らの問題意識にないものは、質問があったからと言って真剣に検討の対象に

はならない。では真剣に検討対象にさせるためには？

・執行部の思考プロセス。現状認識→課題認識→仮説→検証→提案→期待される成果

現状認識は行政側と共有できるはず。課題認識はそれぞれの価値観を伴う。職員は課題を持っている。その課題の中に議員の課題認識がハマるかどうかが。行政側の共感を得られるか。解決のために仮説を立てる。その検証をする。そして提案として出てくる。

予算案もこの立案プロセスについて質問をすべき。現状認識がおかしいのか？課題認識がおかしいのか？仮説がおかしいのか？検証がおかしいのか？

この思考回路に合わせた一般質問を。大事なのはまず課題認識の部分で共感を得ること。

(他人を動かすのだから。共感が無ければ動かない。)

・質問を通じて、執行部と一緒に政策・施策を作っていくイメージで。相手のことをよく知って。マーケティングと同じ。(マーケティングは理解→共感→行動、質問はまず共感を得ることが何よりも大事。それが無いと始まらない。一人がって身勝手なものになるだけ。)

・市民は議員に相談。それを単に執行部への口利きだけなのか、それとも自ら政策提案にして質問にまでしていけるか。→聴く力、調査力が必要。結果、執行部も見直し検討に。

♪現状認識

・現状認識で正確さは不可欠。それを担保するには数字をつける。その出処を明確に。金額、人数、割合など。調べれば分る数字を議場で問うのはムダ。

・自分で確認すること。(ヒアリング、取材の生データは効果的、しかも複数で。聴いただけではダメよ)

・担当者の方がよく知っている。事前の質問聴き取りで逆取材や日常のやり取りの中で情報を得ていく。

・不知(行政側も知らない)の情報を出すことは、議員がイニシアチブを握る材に料になる。そのためには情報の正確さを担保する。情報源が重要。ウラをとる。

・現状認識に誤解がある。事実、法、制度、経緯など。大げさに言っただけ。それは共感の妨げになるだけ。

♪課題認識

・まちづくりの理念があるか。一貫した理念の下での質問であれば執行部の聴く姿勢は違ってくる。その議員の全ての要望に応えるわけには行かないが、住民代表の議員の中心テーマなら、それを実現させてあげたいという職員のメンタリティーはある。

・課題と考えているのは私一人ではない、多くの支援者がいることは共感を得やすい。

・タイミングも大事。共感を得やすい時期。今なら地方創生。但し、我がまちに合ったことなのか、と言うことが大事。

・テーマは続けよう！質問は大きな仕事。成果を出してナンボ。成果を出すためには段取り。計画が必要。ストーリーを考える。1回で成果が出ることはない。質問は成果を出した

めの推進力。質問して、質問して、質問して、そして成果が出てくる。1回で終わらせれば、そんなもんだと思われてしまう。

- ・テーマを続けることと同じ質問を繰り返すことは別。同じ質問を繰り返しても答えは同じ。執行部は過去の答弁に縛られる。同じ質問をする場合は、どのような事情の変更があったのかを明確にする。(量的 or 質的変化があったのかとか、環境が変わったのかとか)

♪仮説 (こうしたら解決するのでは)

- ・他自治体の成功事例の受け売りは仮説にはならない。深く主体的に考え、成功事例を咀嚼する。他自治体の事例は仮説ではなく検証に使う。
- ・市長は他団体の真似はしたがない。
- ・仮説の出し方 簡単な言葉で。市民に説明することを前提で、自分の言葉で。→これからは議会報告会を前提に。論理的に/魅力的に/実現可能性 (できそうと感じられるように) を示す →質問はプレゼン。数字も必要だが写真も大事。

♪検証

- ・当事者や住民の意見を聴く。現場に帰る。ギャップがあれば修正。そのコミュニケーションが重要。それが議員の力。
- ・他団体の成功例を参照する
- ・住民の要望を質問するのはいいが、質問したことで議員の市民への責任が果たせるとしてしまう。行政全体のなかでの優先順位の検証は? 部分最適ではなく、全体最適を目指す。自分だけのニッチな質問で満足するな。

♪提案

- ・仮説が我が自治体でも有効であること (検証) を前提に、我が自治体の事情に合わせて、具体的な政策に落とし込むのが提案。
- ・その際に財源を示せ!

今回学んだことを今後の一般質問をつくる際に大いに活かしていく。

別紙

政務活動実施状況

活動名	ローカル・マニフェスト推進地方議員セミナー参加	
活動区分	①調査研究 ②研修 ③資料作成 ④資料購入 ⑤広報広聴 ⑥要請・陳情 ⑦その他	
活動の目的	地方議会改革の現状と今後について知見を得るため。	
活動の概要	日時	平成26年11月18日(火)
	研修先・主催者等	長野県佐久勤労者福祉センター(長野県佐久市) 主催 ローカル・マニフェスト推進地方議員連盟
	報告内容・実施したこと。	別紙研修報告書②のとおり
	まとめ(感想・市政に活かせること等)	別紙研修報告書②のとおり

備考 政務活動等実施状況は活動ごとに作成し、領収書その他支出を証する書類を最後にまとめて添付すること。

研修報告書②

●研修概要

研修名：議会不要論に現職議員はどう応えますか？

主催：ローカル・マニフェスト推進地方議員連盟

日時：11月18日 場所：長野県佐久勤労者福祉センター

講師：北川正恭氏、中村健氏（早稲田大学マニフェスト研究所）

テーマ：

- ・地方議会の現状について
- ・住民意見の取り扱いとPDCAサイクル
- ・通年議会の実施を振り返って、
- ・グループワーク「真の議会改革には何が必要か？」
- ・特別講義「地方議会から日本を変える」

●感想／今後の議員活動につなげたいこと

マニフェストは既に使い古された政治用語になってしまったが、「政策綱領」や「政策基本方針」という意味。選挙前にマニフェストを発表して有権者に訴える。これを地方議会の場でやっていく議員になり合いましょう、というのがこの研修の目的だった。

早稲田大マニフェスト研究所の以下のような調査がある。

地方議員の3大イメージ

① をしているか不明 ② なくても同じ ③ 支援団体の利益代表

「議会は不要だ！」という声もある中で、議会改革を進めるということを全国どこの議会でも言っている。同研究所の議会改革度ランキングでは我がまち安曇野市は調査回答のあった約1400市町村団体のうち137位。自分としては正直なところ、そんなに上位かな？と思う。

今回の研修会で同研究所の講師の方が、

「この順位は、こうしている、という議会改革の実施項目を数値化したものに過ぎず、それを実施した結果、どう議会が変わり、市民や市政がどう変わっていったかという成果を表したものではない。」と言っていた。

確かに安曇野市議会には、議会改革を進めるための「議会基本条例」がある。しかし、それがなかなかその通り運用されていないと思える状況に対し、「それはいけないでしょ。」

と突っ込んできたこの1年でもあった。しかし、これまでの先輩議員のみなさんも一生懸命やってきて実績を上げてきたという自負があるわけで、それはリスペクトされるべきことである。それをせずして真正面から否定しても議会は変わるものではない。また、相手の否定は自分が正しいとなって、自分の方が偏狭な思考に陥りやすい。結果、対話ができなくなってしまう。

今後僕が取り組むべきポイントは、議会内の不備不具合をああだ、こうだと言うのではなく、自分がいい政策提案をしていくことで、会派を越えて他の議員の皆さんとも話し合いを進め、議論をし合っていく。気づけば、市政を共に考え議論し合えるいい仲間、いい議会になっていた、ということを考えている。地域でもっと政策提案をしていこうという今回の研修会で、その視点がもっと明確になったように思う。

議員としていい政策提案ができるカギの一つは情報力だと思う。こういう研修の場に出て行けば、先進的な取り組みについて知ることもでき、光の指す方向が見えてくるような気になる。またいろんな現場を見て、どうすればもっと進めていけるのかを、その現場の人たちと話し合うことでも、政策提案へと繋がるキッカケがつかめたりするだろう。

最後に早大マニフェスト研究所の所長の北川正恭さんの講演があった。この方はかつて県議や国会議員を経て三重県知事になり、先進的な自治を進めた方だ。講演後に近寄って少しだけ話をした。

「与党会派が多数を占める中、自分は会派に属さず、新人議員として、議会に対し、これはおかしいとも目につくところが多く、ドミナント・ロジック（※）を打ち破るべく、議会内に対しても躊躇することなく意見をしてきた。一方で一人では議会の中ではなかなか思うように展開することができない。」と言ったことを話すと、「いい提案をすることですね。頑張ってくださいね。」とにこやかに言われた。

議員と言うこの仕事をモノにしたい、議会の存在意義を今以上に高めていきたい、そんなことを強く思った。

※ドミナント・ロジック

長年の経験・知識の蓄積のなかで選り抜かれた、当該組織専用の成功のロジック
議会も慣例が重視されるきらいがある。その場を支配する空気。

別紙

政務活動実施状況

活動名	市議活動だより（市議広報紙）の発行	
活動区分	①調査研究 ②研修 ③資料作成 ④資料購入 ⑤広報広聴 ⑥要請・陳情 ⑦その他	
活動の目的	増田望三郎市議の活動を市民に広報するため	
活動の概要	日時	平成26年11月4日に発行
	研修先・主催者等	増田望三郎市議活動広報紙『レインボウ通信第4号』の発行。
	報告内容・実施したこと。	・議員活動の広報紙を作成し、新聞折り込みや市議活動報告会 他で配布した。レインボウ通信は毎回定例会後に発行し、今年 度は4回発行しているが、今回はその1回分の第4号の費用の 一部に政務活動費を使わせて頂く。 なお、該当の広報紙を添付する。
	まとめ（感想・市政に活かせること等）	・市民から意見が寄せられたので、今後の活動に活かしたい。 主な意見は、 1、パチンコ店問題の顛末がよく分った。新聞紙面では分らな い事実関係が分かり、良かった。 2、大事なこと（パチンコ店問題）を知ることができた。今後 も臆さずに議会で発言してほしい。 などであった。 引き続き、議会や議員活動について発信を続ける。

備考 政務活動等実施状況は活動ごとに作成し、領収書その他支出を証する書類を最後にまとめて添付すること。

別紙

政務活動実施状況

活動名	安曇野市の財政状況の把握・理解に関する活動	
活動区分	①調査研究 ②研修 ③資料作成 ④資料購入 ⑤広報広聴 ⑥要請・陳情 ⑦その他	
活動の目的	安曇野市の財政状況を把握するための基礎資料として書籍を購入	
活動の概要	日時	平成26年10月7日(火)
	研修先・主催者等	
	報告内容・実施したこと	書籍「市町村財政分析」(自治体研究社・大和田一紘著)の購入。 ※みどりネット信州の勉強会で購入したため、領収書は「みどりネット信州」になっている。
	まとめ(感想・市政に活かせること等)	財政分析の上で重要な指標となる実質赤字比率、連結実質赤字比率、実質公債費比率、将来負担比率からなる健全化判断比率について詳細かつ分かりやすく書かれていた。 1月に滋賀の市町村アカデミーで財務分析の議員研修に参加した際、またその研修後に無所属議員で市の財政勉強会を行った際にも、この書籍を参考書として使った。5月に平成25年度の財政状況資料集が出されるが、研修や書籍で勉強した視点で市の財政を注視していきたい。

備考 政務活動等実施状況は活動ごとに作成し、領収書その他支出を証する書類を最後にまとめて添付すること。

別紙

政務活動実施状況

活動名	増田望三郎市議の議員活動を広く知らせる その手段として一般質問のDVDを作成する	
活動区分	①調査研究 ②研修 ③資料作成 ④資料購入 ⑤ 広報広聴 ⑥要請・陳情 ⑦その他	
活動の目的	増田望三郎市議の議員活動を分りやすく広報する。	
活動の概要	日時	平成26年6月16日
	研修先・主催者等	一般質問のDVDをあづみ野テレビより購入。
	報告内容・実施したこと。	市民との対話集会や議員活動報告会などの場で視聴。
	まとめ（感想・市政に活かせること等）	<p>・自分でも視聴し、聴き手にも分りやすい質問になっているか、行政とのやりとりがかみ合っているか、など検証している。</p> <p>・市民からは次の感想が寄せられた。</p> <p>主な意見は、</p> <p>1、行政への追及をこれからも真摯に向き合って一生懸命問題の提案や追及をしている。</p> <p>2、安曇野市の議会ホームページでは、本会議の様子がリアルタイムでのみの視聴となっている。録画も見られるようにしてほしい。→新庁舎の新議場での議会からは録画で見られるように伝えている。</p> <p>であった。</p>

備考 政務活動等実施状況は活動ごとに作成し、領収書その他支出を証する書類を最後にまとめて添付すること。

別紙

政務活動実施状況

活動名	各定例会一般質問時における配布資料作成	
活動区分	① 査研究 ② 研修 ③ 資料作成 ④ 資料購入 ⑤ 広報広聴 ⑥ 要請・陳情 ⑦ その他	
活動の目的	一般質問で取り上げる各種テーマについて、資料を使って分かりやすく伝え、行政とのいい議論ができるようにする。	
活動の概要	日時	平成26年6月11日(木)、平成26年9月18日(木) 平成26年12月9日(火)、平成27年3月5日(木)
	研修先・主催者等	
	報告内容・実施したこと。	6, 9, 12, 3月の各定例会一般質問時における配布資料のコピー
	まとめ(感想・市政に活かせること等)	一般質問において、内容や状況説明を分かりやすくするために資料を作成し、配布資料とした。今後もデータや写真など示しながら、事実・根拠のある一般質問を行いたい。

備考 政務活動等実施状況は活動ごとに作成し、領収書その他支出を証する書類を最後にまとめて添付すること。